

メインテーマ

看護を拓く ナラティブ・アプローチ

当日の参加も可能です。
たくさんの方のご参加を
お待ちしております。

開催日時 : 平成25年7月20日(土)
10:00~16:00

開催場所 : 高知県立大学 看護学部

参加費 : 非学会員:2000円
学 生:1000円
学 会 員:無 料

詳細はホームページをご覧ください
<http://www.u-kochi.ac.jp/~nsgakkai/index.html>

連絡先: kwuaonaddress@cc.u-kochi.ac.jp

共催: 高知県立大学看護学部同窓会、高知県立大学

後援: NHK高知放送局、さんさんテレビ、テレビ高知、RKC高知放送、高知新聞社
FM高知、高知シティFM放送

10:00－12:00 午前の部

講演：ナラティブ・アプローチの可能性
東京女子医科大学 教授 田中美恵子

田中 美恵子
(東京女子医科大学看護学部)

「ナラティブ」は、「語り」あるいは、「物語」と訳されます。この言葉には、「語る」という行為と、語られたものとしての「物語」という2つの意味が込められているので、「ナラティブ」と、そのまま言われることが多いようです。

ところで、私たちの日常を振り返ってみると、そこは、「ナラティブ」で溢れかえっていることに気づかされます。テレビでは毎日、ドラマやアニメなど、たくさんの物語が繰り広げられています。もちろん私たちは、小説を読んだりもしますし、映画館やDVDなどで映画も楽しめます。今日一日に起こったことや最近起こった出来事を、家族や友人に話すときも、それは、なんらかの物語になっています。歴史も、人々の語りによって伝えられ、作られていきます。

まるで私たちは、「ナラティブ」なしでは、一日足りとも生きていけないほどです。このように、ナラティブは、人間にとって大変重要な役割を果たしているのですが、その重要性が気づかれたのは、まだつい最近のことです。

看護の臨床も、同じようにナラティブに満ち溢れています。臨床に身を置く看護師ならば、患者さんの物語に耳を傾け、そこから何かそれまでには思い知ることができなかった患者さんの経験や世界にハッとさせられたことがあることと思います。教育現場にいる人ならば、学生の物語から、同じような経験をされたことがあるのではないかと思います。

ナラティブ・アプローチとは、ナラティブという方法を手がかりにして、何らかの現実接近していく方法です。ナラティブには、生きられた時間を他者に伝えること（時間性）、筋立てを通して意味を伝えること（意味性）、語り手と聞き手の共同作業による社会的営為（社会性）という3つの特徴があるとされています。この時間性、意味性、社会性を通して、私たちは、自分の生きる現実を他者に伝えていきます。したがって、私たちの生きる現実とは、ナラティブによって構成されているということが出来ます。現代では、ナラティブ・アプローチは、世界を理解する方法の1つと考えられています。

このナラティブ・アプローチは、「実践」という目的にも、「研究」という目的にも使うことのできるものです。当日は、私の拙い実践・研究経験から、ナラティブ・アプローチの可能性について、お話をさせていただきたいと思います。

また、午後の部では、企画委員の先生方が、たくさんのナラティブの企画を準備されているようで、そちらも楽しみにしております。

13:30ー16:00 午後の部： ワークショップ「聴き、語り、ともに考える」

ワークショップ1：病と生きる人の語りから

話題提供者：青木美保さん(セルフグループ We can Fight 主催)

青木さん自身も41歳のとき乳がんを患ったサバイバーです。主宰する We can fight のホームページには、「わたし自身も乳がんが診断されましたが、乳がん治療を通し、乳がんが診断される前より健康的で前向きな自分になり、人生を楽しんでいることを実感しています。と書かれています。その言葉通り、リリー・ショックニー氏著の『生きるための乳がん』を編訳され、現在はお茶の水大学大学院で遺伝カウンセラーめざし勉強中です。彼女が語ることばから、私たちの見いだせることは何？ ぜひ一緒に考えていきましょう。

コーディネーター：池田久乃（高知医療センター がん看護専門看護師）

弘末美佐（高知県立大学 がん看護専門看護師）

ワークショップ2：認知症のケアを提供する人の語りから

話題提供者：安本孝子さん(グループホームげいせい一星のみえる丘一所長)
藤田冬子さん(高知県立大学教授 老人看護専門看護師)

自分の記憶が少しずつ瞬間、瞬間で切れてしまい、時間の感覚や言葉の意味合いが認識しづらくなり、自分が何をしようとしていたのか、何を考えていたのか思い出そうともがいても繋がらない。そのような自分に一瞬気づいたとしたら、押し寄せる不安感や何かが違うという感覚が走り、自分自身の信頼感がゆらぎ、絶望の涙が流れても、その感覚さえも留まることがなく記憶から離れていく時、あなたは、どのような救いを求めたいと思いますか。

そのような時に、温かく包み込むようなケアを受けたとしたら、なんて幸せでしょう。そのような時に、失敗をたしなめられたら、なんて惨めな気持ちになるでしょう。

認知症の看護ケアを一緒に考えてみませんか。

コーディネーター：角谷広子（芸西病院看護部長）

松永智香（近森病院第二分院看護部長）

ワークショップ3:地域での生活を支える人の語りから

話題提供者: 山中さん(アテラーノ旭)
中越美渚さん(高知市西部地域高齢者支援センター旭分室)

(高知県庁ホームページより アテラーノ旭の活動について)

年々高齢者が増え、空き家や空き店舗が増えていく旭のまちを、なんとかみんなの力で元気にしたいという想いで、平成19年にたちあげました。お茶や食事を提供してみんなの憩いの場になっている他、趣味をいかした手芸品などの展示販売、絵画などの作品の展示などを行っています。平成21年よりアテラーノ旭手だすけ事業部を設立し、希望する人への弁当の配達、あまり動けない人や忙しい人のための家事の手伝い、買い物や病院などへ出かけるお手伝い、生活相談などを行っています。本年からは、旭の地域の歴史や文化を掘り起こし、継承していく活動にも取り組んでいます。

“住民が元気な地域”の仕掛け人！ そのおふたりの語りから、自分たちで自分たちの生活を豊かにするというのを一緒に考えてみませんか？

コーディネーター: 北村真由美 (高知市保健所地域保健課)
中井弘子 (高知県健康政策部中央東福祉保健所)

ワークショップ4:看護師の語りから

話題提供者: 大野翔子さん(浅香山病院 1年生)
関正節さん(高知医療センター課長)
小笠原麻紀さん(高知大学医学部附属病院 リエゾン専門看護師)

私にとっての「看護」って？ あなたにとっての「看護」って？ 結婚、家族、進学、趣味などなど、私が生きていく中で、「看護」はどんな存在なのか… ここでは参加者みんなが話題提供者であり、コーディネーターです。世代をこえ、性別をこえ、施設や専門性をこえて、ざっくばらんに「看護」について語り合しましょう。

コーディネーター: 畠山卓也 (高知県立大学 精神看護専門看護師)
寺岡美千代 (高知医療センター)

ワークショップ5:発達障害をもつ子どもの親の語りから

話題提供者: ますださん(発達障害の子どもを支えるお母さん)
井上一二三さん(高知県立療育福祉センター 看護部長)

「このまま大丈夫になるのかな…と思ったら、やっぱり大変…そんなことの繰り返しでした。」と静かに語るますださん。それでも常に未来を見つめ、子どものサポーターであり続けるますださんの体験は、ひとりの親としても感じる事がいっぱいです。発達障害という視点のみならず、家族、子育て、学校教育など、さまざまな視点から、みんなで語り合うことができれば良いなと考えています。

コーディネーター: 三浦由紀子(高知医療センター 小児看護専門看護師)

ワークショップ6:研究方法としてのナラティブ・アプローチ

話題提供者: 吉川孝先生(高知県立大学文化学部)
中山洋子先生(高知県立大学看護学部)

「当事者の語りはそれだけで力がある。人の語りをひきだす専門家だってたくさんいる。その中で、ケアを行う私たち看護師が、人の語りをひきだし、研究的に分析していく意味がどこにあるのでしょうか?」「ナラティブ・アプローチで焦点にするのは人の語り? 行間に隠された、語られないその人の思いはナラティブ・アプローチの焦点になりうるの?」「研究における客観性って何? ナラティブ・アプローチは客観性を重視する研究の方法になりうるの?」研究方法としてのナラティブ・アプローチを考えると、たくさんの疑問がうまれてきます。

ナラティブ・アプローチの源は哲学的な考え方です。このワークショップでは、現象学的な哲学を追及される吉川先生をお迎えし、その基本の「き」に立ち返ることから出発したいと思います。基本の「き」から、研究方法としてのナラティブ・アプローチについてみんなで考え語り合ひましょう。

コーディネーター: 池添志乃(高知県立大学教授)

当日は、障害者福祉サービスセンターウェーブさんのパンの出張販売コーナーと、東洋羽毛さん提供のコーヒーコーナーが設置されます。

障害者福祉センターウェーブとは...

愛宕町の旧松田病院跡の1階と2階がB型作業所のウェーブで定員40名。3階がグループホームポルトで定員12名の小規模施設です。高知駅にも日曜市にも近く、遠くは須崎や南国からJRで、近場の方は自転車・バイク・徒歩で来られています。活動内容は1階で行っているクリーニング作業とパン・グアテマラ手づくり作品の販売、喫茶などの活動です。2階でおこなっている軽作業で今年取り組んだ目玉作業種目は高齢者が食事をする際の、濡れないディスプレイ製品のエプロン製作でした。これはオリジナルでコンスタントにできる作業として中心的な種目で利用者の80%が係わっています。(近森会 ホームページより抜粋)

ウェーブのパン売れ筋ベスト4 紹介

1位 ジャガバターパン



北海道産のジャガイモをペースト状にして、デニッシュ生地で包んだ甘い菓子パンです。

抹茶入りのもち風生地以小倉あんを包み、サクッリ感の抹茶味のデニッシュ生地で巻いています。

2位 抹茶もち風デニッシュ



3位 チョコつとはびちゃん



バターたっぷりの何層にも折り重ねられたデニッシュ生地にほんのり甘いチョコ♪新食感！

バターたっぷりの何層にも折り重ねられたデニッシュ生地にほんのり甘い新食感！

4位 はびちゃん



当日はウェーブ売り上げベスト10のパン+αをご用意いたします